

留学先大学： パリ第二大学  
 留学先での所属学部・研究科： 法学部  
 留学先での在籍身分： 交換留学生  
 留学期間： 2015 年 9 月～ 2016 年 6 月  
 神戸大学での所属学部・研究科： 法学研究科  
 学年（出発時）： D2  
 本報告書記入日： 2015 年 11 月 27 日

## 出発前

どのように情報を集めましたか。参考になる本やホームページがあれば、記入してください。

関西西日仏会館（京都）で、フランス留学セミナーが開催されていたので、それに参加した（無料）。実際にフランスに留学して帰国したばかりの方が実体験に基づいて具体的に話をしてくれるし、色々な資料が配られるので、大変参考になった。  
 そのほかは、インターネットでその都度必要な情報を収集した。関係機関のHPはもちろんのこと、日本人留学生のブログなども参考にした。

## 住居について

- ・住居のタイプ：  大学寮  アパート  ホストファミリー  その他（具体的に） \_\_\_\_\_  
 住居（寮，アパート）の名前： Cité universitaire
- ・部屋の種類：  一人部屋  二人部屋  その他（具体的に） \_\_\_\_\_
- ・ルームメイト：  現地学生  留学生（出身国： \_\_\_\_\_）  その他（具体的に） \_\_\_\_\_
- ・どのように探しましたか。：  大学の斡旋  自分で探した  その他（具体的に） \_\_\_\_\_
- ・大学までの通学時間・手段： \_\_\_\_\_ 20分，RER B
- ・住居の周りの環境はどうですか。：

運悪く割り当てられた部屋が高速道路に面しているのので、騒音がひどいが、慣ればなんとかな程度である（ただ、窓を開けたくないのので、夏が心配ではある）。スーパーはいくつかあるが、どれも徒歩10分くらいはかかる。

- ・毎日の食事はどうしていますか。：

平日はCité universitaireまたは市内にあるCROUSの食堂で済ませている（一食3.25ユーロ）。土日は、友人と、または一人で食べに出かけている。

- ・住居は渡航前に、または渡航後すぐにみつかりましたか。トラブルはありませんでしたか。：

住居探しは難航した。いくつかのサイトで貸主の方と直接連絡をとってみたが、どれもうまくいかなかった。Cité universitaire日本館の館長の計らいで、なんとか渡航前に見つけることができた。7月末のことであった。渡航までに決まらないことも十分予想されたので、住居探しの期間も含めて余裕をもってパリに到着するようにし、その間はパリ在住の友人に一時的に泊めてもらえるようにしていた。

## 大学の授業について

### 1. 履修登録について

- ・履修登録の時期：  出発前  到着後
- ・履修登録の方法：  On-line  International Office等の仲介  その他（具体的に） \_\_\_\_\_
- ・登録時に留学生として優先・配慮されることはありましたか。：  無し  有り
- ・優先・配慮があった場合、具体的に教えてください。

- ・希望通りの授業が履修できましたか。：  はい  いいえ
- ・希望通りの授業が履修できなかった場合、その理由を教えてください。

## 2. 現在までに、履修している授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数 /週	留学先 での単 位数	履修し ている 学生数	予習, 復習, テスト等についてアドバイスも 含めて教えてください。
1	国際私法I	Mme Fauvarque-Cosson	3h + 1.5 (TD)	9 (TD 込)	150	フランス人の学生と仲良くなり、ノートを見せてもらえるようにする。
2	民法1（債権法）	M. Leveneur	同上	9 (TD 込)	200	同上
3	EU法	M. Pfister	3h	4	100	同上
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						

## 3. 授業（カリキュラム等）について クラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

講義は、どれも100人以上の学生数がある。教授はかなり早口で話し、学生はそれをPCかノートで、必死になって一字一句正確に書き取るのが、こちらの一般的な授業風景である。レジュメの配布や板書は全くないので、特に判例や特別法で知らないものが出てくると、聴き取るのは難しい。フランス人の学生からノートを見せてもらおうと、本当に正確に書き取っていて、ノートそれ自体が教科書のようにになっている。TDは、ゼミのようなものであるが、博士課程の学生が担当する点が興味深い（給与が支払われると聞いた）。学生が担当するといっても、TDをとっている場合はTDの点数は教授の講義とともに成績に反映される。さらに、小テストや模擬試験はTDの担当者が採点し、期末試験は教授の採点とTD担当者の採点の平均値をとるらしく、その権限は絶大である。1回のTDで前半は課題（事例問題や判例・条文の評釈）の解説、後半は8-10個の判例の全部または一部の説明であり、事前の予習が不可欠である。小テストや夜の3時間におよぶ模擬試験もTDの点数に含まれる。フランス人学生は、講義を5~6つ、TDを2~3つとっているの、毎日とても忙しそうである。

## 一週間のスケジュール（授業時間、課外活動等、毎日の生活を記入してください。）

	月	火	水	木	金	土	日
8:00							
9:00	9h-10h		9h-11h	9h20-10h			
10:00	民法		民法	50			
11:00				TD（国際私法）			
12:00	12h-14h	13h-14h	他の授業を聴講、または自習				
13:00	国際私法	国際私法					
14:00					14h-15h30		
15:00					TD（民法）		
16:00							
17:00							
18:00		18-21h					
19:00		EU法					
20:00							
21:00							
22:00							

## 現在までの感想 自由に記入してください。（800字～）

覚悟はしていたことであるが、フランスでは、各種手続きはもちろん、レストランやスーパーのレジなど、長い行列を作ってひたすら待つことが多いので、気を長くすることが大切である。そのため、一人で外出するよりは、友達＝話し相手と行くほうがよい。

日本では信じがたい状況だが、銀行の口座開設、地下鉄の通学定期券（ImaginR）、携帯電話の契約は、申請してから使えるようになるまで数週間を要する。到着してからの一週間のほとんどは、各種の申請や手続きのために、窓口で何時間も待つことに費やされた。僕は比較的スムーズにことが進んだほうだが、銀行のキャッシュカード（カルト・ブルー）がなかなか届かず、何度も窓口に赴いて問い合わせでは、係の人から冷淡に対応されることが続いた。友人の中には、提出したはずの書類を、後になって改めて提出するように求められたり、申請してから1か月半以上もなしのつぶてであったりといったケースもある。いちいち日本と比較していたのでは、フランスのやり方は慣れない分不便に感じる人が多い。パリ生活を楽しむには、発想の転換が必要かもしれない。また、長時間の待ち時間を何度も経験することで、短気がかなり改善されたと感じている。

生活面では、パリの水が硬水であることにとても苦労している。洗濯物は色によって洗剤を使い分けなければならないし、柔軟剤も必須である。また、シャワー後の肌の乾燥のひどさには、まだ最適解を見つけられないでいる。そのほかは、パリでは路上喫煙や歩きタバコが一般的で、外出することと受動喫煙がほぼイコールになり、喉の調子に気を使わなければならないことも、長期滞在によって気づいた問題である。日本で議論されている「嫌煙権」がこちらではどのように扱われるのか、機会があれば調べてみたい。

留学生が現地人学生と交流する機会があまり多くないことは、パリ第二大学でも、神戸大学でも状況はよく似ていると思われる。フランス人学生は、留学生よりはるかに多くの講義やTDを履修していて膨大な予習・復習に追われているし、単位認定がかなり厳しいようで留年生の数も多い。あまり国際交流をする余裕はなさそうである。神戸大学でも、8年間過ごした印象では、日本人学生の中で留学生と交流を持つ者はごく一部であるように思える：特に法科大学院への進学を目指す者は授業をたくさんとり、試験勉強で忙しいし、留学生も法律の授業をとるものが少なかったのも、意識していない限り留学生と交流する機会は非常に少なかった。パリでのこの状況は、残念ではあるがまあそういうものだろうと納得している。それでも、同じ授業やTDで顔を合わせているうちに、フランス人学生とも少しずつ話すようになったと思う。フランス人は気難しいとよく言われるが、若い者同士ではそうでもないだろう。他方で、留学生同士では、国籍を問わず仲良くなりやすい。これも神戸と共通した現象だろう。この数か月で知り合った友人は、実に様々なバックボーンを持っていて、話しているととても面白い。

パリ第二大学の図書館は、座席数が限られていて座れないことが多い。一つの座席は狭いので窮屈である。大学の広間にはソファがいくつもおかれていて、学生たちはみなそこで食事をとったり、PCで予習・復習をする。そのほうがついでおしゃべりもできるので楽しい。知り合いを増やすことにも一役買っている。

先日13日にパリで発生した同時多発テロ事件によって、宿舎、大学、各店舗でのセキュリティが一段と厳しくなった。そういった点を除けば、パリでの生活は事件の前後でさほど変わらない。事件の翌週には予定通り小テストも行われた。事件が与えた衝撃や悲しみは、特にパリに住んでいる人たちにとってどれほどのものだったかはしれないが、現地の人たちは冷静であり、大混乱を起こすことなく日常生活を送っている。ただそれゆえに、通常通りの生活を送れるありがたさも同時に感じる。パリから遠い日本では、テロの衝撃的な印象が支配的になっているのだろうと想像される。僕の周囲にも、パリに旅行に行く予定だったがキャンセルしたり、行き先を変更したりしたということをよく聞くが、残念でならない。注意さえ怠らなければ、パリでの生活は思ったよりも「ふつう」であることを強調したい。